

の実行と完成に対して、重要な指導を発揮した。彼らは最初のアンケート調査欄に自分の研究領域、研究テーマ、研究成果、そして自分が所属している研究機関の研究成果を紹介した。実に、これが専門家アンケート調査法によって実施された。これらのデータは、プロジェクトの実行グループの資料データ検索という作業範囲の確定に重要な根拠を提供してくれた。実行グループは私が所属している中国人民大学社会学部に成立され、メンバーが主に李強教授、私の同僚と博士生、修士院生および他の学部 of の研究者である。約五ヶ月間を費やし、社会学に関する検索可能な文献資料をすべて検閲した上で、報告もまとめた。李強、劉精明両氏の協力によって、報告書原稿を編集した。それは約8万字から成り、私とその前言を書いた。出来上がった原稿について専門家たちの意見を求め、1996年末、最終的に4万字まで圧縮して、一冊の報告書が誕生した。国家社会科学基金弁公室編、学習出版社によって正式に出版された。書名は『全国哲学社会科学研究状況と発展趨勢』である。

この報告は主に四つの部分によって構成されている。目次は下記のとおりである。

第一部 社会学再建及び学科発展

- 一、社会学の回復
- 二、社会学学科建設の成果

第二部 社会学各領域の研究進展

- 一、社会学の理論と方法の研究進展
- 二、社会発展指標体系の理論と実践研究
- 三、現代化と社会発展理論
- 四、農村社会学の研究状況
- 五、コミュニティ研究
- 六、社会心理学研究の総述
- 七、経済社会学、工業社会学と組織社会学の研究
- 八、社会保障研究
- 九、婚姻、家庭ジェンダーの社会学研究
- 十、女性、青少年に関する社会学研究
- 十一、知識人の特別研究
- 十二、社会問題研究

- 十三、海外の社会学理論研究について
 - 十四、社会学その他の面における研究
- 第三部 人口学の研究進展

- 一、人口学の回復と発展
- 二、人口学学科建設と研究成果
- 三、人口学の研究進展

第四部 国家社科基金助成金による社会学プロジェクトの課題研究回顧

そのうち、各部章の中に、若干のサブテーマを設けた。たとえば、第二部の第一の問題「社会学の理論と方法の研究進展」の中には、社会構造と社会階層の理論と実践研究、社会メカニズム研究、集団組織研究、“単位”研究などのサブテーマがある。

ここで「(中国大陸)社会学学科研究状況と発展趨勢」を紹介する意図は、以下の四つの面からなる。

第一に、この問題は確かに重要な問題である。もし1991年12月に出版された『中国大百科全書社会学巻』が、中国社会学の理論面での経過報告と展示であると言うなら、「(中国大陸)社会学学科研究状況と発展趨勢」は、中国社会学の実証面での経過報告と展示である。『中国大百科全書社会学巻』の編集において、私は非常に光栄なことに、理論社会学部分の主編と主な執筆をになった。巻頭論文の第一作者でもあり、社会学巻編集委員会委員でもある。

第二に、このようなテーマは中日両国社会学者がともに関心を持っている問題である。今回、遠藤惣一教授と高坂健次教授からこのテーマを頂いたのはその証であると思う。

第三に、このテーマを通して、大体中国の社会学界が現在何をやっているかを把握することができるだろう。

第四に、このテーマを通して、中国社会学界がこの問題に関する比較的綿密な研究が行われていることが説明される。したがって、中日社会学界はこの問題における単なる交流に止まらず、もう一步踏み込んだ実質的な交流を行うことができるようになるだろう。

1) 原注②：中国国家社会科学基金弁公室編『全国哲学社会科学研究状況と発展趨勢』学習出版社1996